

平成16年度病害虫発生予察 予報第9号

平成16年12月16日
長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【気 象（平成16年12月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並でしょう。
週別の気温は、1週目、2週目は高く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温	10	30	60
降 水 量	20	40	40
日照時間	30	40	30

* 予報対象地域：九州北部地域

農作物名	病 害 虫 名	現 況	予 想
ト マ ト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや多 やや少 並	やや多 やや少 やや多
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少 並 並 並 やや少 並	やや少 並 並 並 並 やや多
レ タ ス	菌核病 灰色かび病	やや少 並	やや少 並
タマネギ	白色疫病 ネギアザミウマ	並 やや少	並 並
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類 (注意報第9号を継続)	やや少 並 並 多	やや少 並 やや多 多

【トマト】 ()内は平年値

1. コナジラミ類（シハノリコナジラミ、ワシツコナジラミ）と黄化葉巻病

1) 予報内容

発生程度 コナジラミ類 やや多
 黄化葉巻病 やや多

2) 予報の根拠

コナジラミ類

(1) 12月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.3% (0.9%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。

(2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

黄化葉巻病

- (1) 12月上旬の巡回調査の結果、発病株率は0.0%、発生圃場数は12筆中2筆であった。
- (2) 県央、島原農業改良普及センターの11月下旬に行った、聞き取り及び発生調査によると、大村地区、島原半島南部では定植後に7~8割の圃場で発生していたことが確認された。その後、発病株の抜き取りなどの防除対策により、発生圃場は約4割に減少したが、依然としてやや多い発生状況である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 黄化葉巻病はシルバーリーフコナジラミのみで媒介されるウイルス病である。
- (2) シルバーリーフコナジラミの発生は、本年、夏季から秋季にかけて多かったが、現在、減少しており、12月以降、野外での発生はほとんどみられなくなる。
- (3) このため、12月以降の発生が少ない時期に、ハウス内の防除を徹底し、コナジラミ密度を限りなくゼロにする。また、発病株は抜き取り等、適正に処分し、ハウス内での二次感染防止を徹底する。
- (4) コナジラミの防除薬剤を選択する上では、訪花昆虫(ハチ)を使用する際に、影響の少ない薬剤を使用する。

2. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査の結果、発生は認めなかった(発病果率0.0%)。

【きゅうり】

1. ベと病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は0.3%(3.8%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。

2. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は3.4%(2.0%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。

3. 褐斑病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は0.3%(0.7%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。

4. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査の結果、発生は認めなかった(発病果率0.1%)。

5. ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 12月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(1.4%)。

- (2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 葉裏や芯葉など薬剤がかかりにくいところにも十分付着するよう、ていねいに散布する。
 - (2) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

6. コナジラミ類 (シバ-リ-フコジラミ、オシッコジラミ)

- 1) 予報内容
 - 発生程度 やや多
- 2) 予報の根拠
 - (1) 12月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.4% (0.8%)、発生圃場数は12筆中3筆であった。
 - (2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤防除だけでは効果が上がりにくいので、圃場周辺の除草、ハウス開口部のネット張りなど耕種的防除を組み合わせる。
 - (2) 薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

【レタス】

1. 菌核病

- 1) 予報内容
 - 発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠
 - 12月上旬の巡回調査の結果、発病株率は0.0% (0.2%)、発生圃場数は15筆中3筆であった。

2. 灰色かび病

- 1) 予報内容
 - 発生程度 並
- 2) 予報の根拠
 - 12月上旬の巡回調査の結果、発病を認めなかった (0.0%)。

【タマネギ】

1. 白色疫病

- 1) 予報内容
 - 発生程度 並
- 2) 予報の根拠
 - 12月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった (発生を認めない)。

4. ネギアザミウマ

- 1) 予報内容
 - 発生程度 並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 12月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は1.7% (8.8%)、発生圃場数は12筆中4筆であった。
 - (2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【いちご】

1. うどんこ病

- 1) 予報内容
 - 発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠
 - (1) 12月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった (発病株率 1.1%、発病果率 0.2%)。

2. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- 12月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.0% (0.1%)、発生圃場数は27筆中2筆であった。

3. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

- (1) 12月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は2.7% (3.2%)、発生圃場数は27筆中4筆であった。

- (2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特に花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
- (2) 薬剤のかけむらがあると防除効果が落ちるので、葉裏まで十分に散布する。
- (3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ハダニ類

1) 予報内容

発生程度 多

2) 予報の根拠

- (1) 12月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は7.7% (2.7%)、発生圃場数は27筆中14筆であり、一部多発圃場があった。

- (2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

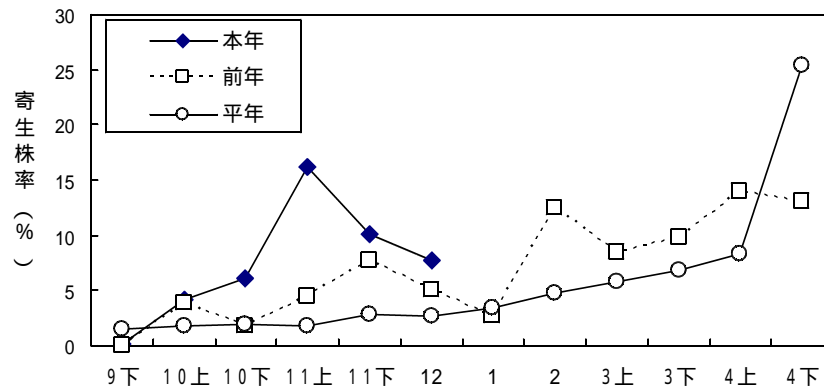


図 ハダニ類の寄生株率の推移(巡回調査)

月旬

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めたら初期のうちに徹底した防除を行う。
- (2) 薬剤のかけむらがあると防除効果が落ちるので、葉裏まで十分に散布する。
- (3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。